



○目指す子ども像（洛西中学校ブロック）『夢の実現に向けて、共に楽しく学び、たくましく伸びていく子の育成』
重点目標（児童生徒の共通する課題より）
(1) コミュニケーション能力を育成するための「言語活動」を充実する～つながる・深める・伝え合う～
(2) 児童生徒が主体的に活躍できる場面を設定し、自己肯定感や自己有用感を高める。
○境谷小学校めざす子ども像 『素直な心で 人となつがり より良い未来を切り拓く 境谷の子』～自愛と友愛に満ちた子の育成～
1. 粘り強く挑戦する子 2. 自分も友だちも大切にできる子 3. いのち・健康を守る子

質問項目	
①	学校の勉強はわかりますか。
②	自分の意見や考えを話すことができていますか。
③	人の意見や考えをしっかりと聞き取ることができていますか。
④	進んで本を読むことができていますか。
⑤	毎日、忘れ物をせずに、学習の準備をすることができていますか。
⑥	毎日、家庭学習をすることができていますか。
⑦	授業や学校生活の中でがんばったことを、先生はほめてくれますか。（児童のみ）
⑧	学校に楽しくかよふことができていますか。
⑨	学校では、先生や友だちから大切にされていると思いますか。
⑩	地域の人、先生たち、友だちに進んで気持ちのよいあいさつができていますか。
⑪	早寝・早起きをしたり、朝ごはんをきちんと食べたりしていますか。
⑫	自分にはよいところがあると思いますか。
⑬	難しいことでも失敗を恐れずに挑戦していますか。
⑭	学校のきまりや約束を守ることができていますか。
⑮	自分から進んでそうじや係活動ができていますか（高：掃除や係活動、委員会活動ができていますか）
⑯	学校からのおたよりをお家の人に見せていますか。
⑰	わからないことや、困っていることを先生に相談することができていますか。
⑱	お家の人に、学校でのできごとを話していますか。
⑲	お家の人や地域の人からほめられることがありますか。
⑳	地域の人との交流（おはなし会・少年補導の行事）やゲストティーチャーとの交流、PTA行事を楽しみにしていますか。

児童	
1	43 43
2	36 41
3	49 41
4	35 28
5	19 54
6	33 40
7	48 34
8	53 28
9	47 36
10	46 36
11	44 38
12	36 34
13	37 39
14	34 49
15	53 28
16	53 31
17	37 35
18	47 31
19	44 32
20	44 30

保護者・学校運営協議会	
1	30 60
2	25 55
3	27 56
4	27 26
5	24 53
6	34 40
7	0
8	58 37
9	53 43
10	24 56
11	44 45
12	93 6
13	22 57
14	36 53
15	18 39
16	40 53
17	42 51
18	47 36
19	45 49
20	23 56

質問項目	そう思う		大体そう思う		あまり		思わない		無回答	
	児童	大人	児童	大人	児童	大人	児童	大人	児童	大人
①	43	30	43	60	5	7	1	1	7	2
②	36	25	41	55	13	17	3	1	7.2	2
③	49	27	41	56	3	17	1	0	7.2	0
④	35	27	28	26	17	30	13	15	7.2	2
⑤	19	24	54	53	16	15	4	7	7.2	2
⑥	33	34	40	40	14	20	6	2	7.2	3
⑦	48	34	10	1	7.2					
⑧	53	58	28	37	9	1	4	1	7.2	2
⑨	47	53	36	43	10	2	0	0	7.2	2
⑩	46	24	36	56	10	17	1	1	7.2	2
⑪	44	44	38	45	5	9	6	0	7.2	2
⑫	36	93	34	6	16	0	7	0	7.2	1
⑬	37	22	39	57	14	17	4	1	7.2	2
⑭	34	36	49	53	10	9	1	0	7.2	2
⑮	53	18	28	39	10	41	2	3	7.2	0
⑯	53	40	31	53	7	4	2	1	7.2	1
⑰	37	42	35	51	15	6	6	0	7.2	2
⑱	47	47	31	36	11	12	4	2	7.2	2
⑲	44	45	32	49	10	3	7	0	7.2	2
⑳	44	23	30	56	17	19	2	1	7.2	1

そう思う 大体そう思う あまり 思わない

そう思う 大体そう思う あまり 思わない

※単位は%

確かな学力

～規律ある学習や生活から子どもの問題意識へ～

「確かな学力」を子どもたちがよりよく身に付けることができるようにするため、次のような取組を進めていきます。

①本校の育成すべき資質・能力は「問題解決力」です。その育成における課題を明確にし、子どもたちに必要な資質・能力を身につけさせるためにはどのような授業改善を図るべきか全校で評価する機会を設けています。

②③「話す・聞く」において、まず大事なことは学習規律です。相手意識をもつことが基礎となります。話し方名人や聞き方名人にあるような事柄を本校のスタンダードとし、学年ごとに系統性をもって指導にあたります。その上で、子どもたちが問題意識をもてるような授業を行います。そうすることで、互いの考えを尊重し合いながら協働的に課題の解決に向かい、考えを広げたり深めたりすることができると考えています。

④朝読書タイムの設定や図書室の時間設定により一定の習慣化を図れましたが、2学期終業時点で100冊達成者数は全校の2割程度でした。また、休憩時間や家庭での読書時間における読書時間は少ないため、主体的に読書を行えているとは言えません。今後も、図書館を中心に読書環境整備に励みます。

⑤物を大切にすることの育成を支えるために、今まで以上に家庭との連携を図ります。

⑥年度初めに、保護者向けに「家庭学習のすすめ」を配布し、家庭学習の目安の時間や内容について提示を行いました。しかし、学力実態の分析を踏まえた内容の設定においては課題があると考えます。児童や保護者のニーズも取り入れた内容へとアップデートしていきたいと考えます。

⑦本校では、学校生活をよりよくするためのアンケートを実施しています。その結果を十分に分析し、集団や個人は「いつ」「どのように」ほめられることで自己肯定感や自己存在感を感じることができるのか、実態と傾向のもと、一人一人に合わせた安心感や所属感を味わわせていきたいと考えています。

豊かな心・健やかな体

～安全安心な風土をもとにした学校づくり～

子どもたち一人一人を徹底的に愛することを教育理念とし、学校教育目標に向けて、個に応じた支援とはいったいどのようなものか日々研鑽しています。

⑧本校は「いじめを許さない学校づくり」を目指しています。そのために、見逃しのない観察・手遅れのない対応・心の通った指導のもと、日々子ども一人一人のささいな兆候に気づき、全教職員の共通理解のもと、その指導にあたるような組織づくりを進めていきたいと考えています。

⑨⑩児童会活動を柱とした自治活動の場を保障することで、子どもが望ましい人間関係を築き、集団の一員として協力する態度を育成できるようにしています。たてわり活動もその一つです。その中でリーダーシップやフォロワーシップを育み、一人一人の自己存在感を向上させるようなほめる仕掛けを工夫していきたいと考えています。

⑩本校では総合的な学習の時間のカリキュラムの見直しや生活科による積極的な地域人材の活用を図っています。そのことにより、地域の人との交流場面が増加し、それを楽しみにする児童の姿が多く見られてきました。このような機会を通して、多くの人に対する関わり方を伝えていきたいと考えています。

⑪本校は長期休業明けに生活調べを行っています。その中で「早寝・早起き・朝ごはん」のチェック項目と今回の学校評価の結果を比較すると、「朝ごはん」に関する回答については子どもと大人の認識に差がありませんでした。しかし、「早寝・早起き」に関する回答については、大人の「規則正しい」と捉える価値観と生活実態に大きなズレが生じています。「規則正しい」生活とはどのような姿であるか、明確に子どもに伝えていくべきだと考えています。

⑫⑬きまりやくそくがあるということは、子どもたち一人一人の安全安心な風土の醸成にもつながります。きまりやくそくを子どもも大人も大切にすることは、自分も友だちも大切にすることを育むことにもつながります。4月初めに配布した「境谷のやくそく」をもう一度ご家庭でも確認いただけたらと思います。

学校・家庭・地域の連携

～学校・家庭・地域の架け橋をデザイン～

子どもたちを学校・家庭・地域が連携して育てるという考えのもと、これからも協働的な取組の構築を進めていきます。

⑬⑭前期の評価を受けて、おたよりやホームページの更新などに力を注ぎました。持ち物や予定の連絡だけでなく、担任の思いや子どもたちが感じたことや思ったことなどをエピソードとして発信してきました。そうすることで子どもたちがどのように変容してきたのか伝わり、学校と家庭の関わりがより濃いものになってきたのではないかと感じています。今後もこれらが学校と家庭をつなぐよりよいコミュニケーションツールとなるように、より分かりやすく、より充実させていきたいと考えています。

⑮学校評価の自由記述欄では、「多くの教職員に見守られることで安心して学校に通わせることができる」という声をいただいています。今日、子どもたちの困りはどんどん見えにくいものとなってきています。本校独自に行っているマネージャーを含むFamily担任制により、すべての教職員ですべての児童を見守ることができる体制を築いています。そして、教職員同士の日々の情報共有や校外活動における子どもたちのがんばりを見えるかたちで、ご家庭にも伝えていくことができればと励んでいます。

⑯今年度、総合的な学習の時間や生活科のカリキュラムの見直しを行いました。地域の施設を訪れたり体験活動を通して様々な人とふれあったりすることで、地域の人々の思いを考えることができました。それらの学びの成果を3月のSAKAIDANI FESTIVAL23にて発表したいと考えています。また、低学年を中心に地域連携も含めた本校独自の架け橋プログラムをデザインしています。子どもたちの抱えている困りの要因には、生育環境や人間関係などから生じることが多くあります。幼稚園との交流を密にし、保幼小接続の段階でどのようなことに不安や心配を抱くのか地域と連動することで、少しでも理解することができればと考えています。